

1 血圧脈波検査で測定される Up stroke
2 time の有用性について
3

4 ○後藤光 山田裕美子 小川優 山本祐子 林真希 木
5 村豊 中村文隆(帝京大学ちば総合医療センター検査
6 部)
7

8 **【目的】**閉塞性動脈硬化症 (ASO) のスクリーニング
9 として ABI が広く用いられている。ABI は簡便で再
10 現性も良く、重度の ASO 評価もできるが、ABI>0.9
11 の場合にも下肢動脈エコー等の画像検査では軽度～
12 中等度の狭窄が認められる症例がある。そこで今回
13 は同時に測定される項目である Up stroke time (UT)
14 を用いて下肢動脈における軽度～中等度狭窄病変評
15 価の有用性を検討したので報告する。

16 **【対象と方法】**2006年6月から2007年12月までに
17 当院にて ABI と下肢動脈エコー検査を施行したのべ
18 95人190肢中、下肢動脈エコー検査にて面積狭窄率
19 75%を超える症例を除外した117肢。0～30%狭窄群
20 (A群)、30～50%狭窄群 (B群)、50～75%狭窄群 (C
21 群) と分類し、多重比較 (Scheffe) を用いて比較検
22 討を ABI、UT において行い、危険率5%未満をもっ
23 て統計学的有意差ありとした。

24 **【結果】**ABI には各群間に有意差は認められなかつ
25 たが UT では B 群、C 群ともに有意差が認められた。
26 (A 群 150 ± 32 vs B 群 175 ± 44 $p=0.008$ A 群 vs C
27 群 175 ± 35 $p=0.039$) B 群と C 群間には有意差は認
28 められなかった。(B 群 vs C 群 $p=1.00$)

29 **【結語】**狭窄率による分類では UT が軽度狭窄病変を
30 鋭敏に反映した。ABI だけではなく UT の結果にも留
31 意することでスクリーニングにおける ABI の価値を
32 さらに高めることができると考えられる。

33 0436-62-1211 (内線 1202)
34
35
36
37
38
39